会議結果報告書

1　会議名	ごみ処理に関する課題についての意見交換会（芹沢中部自治会）
2　日時	平成 30 年 10 月 19 日（金）19：00～20：00
3　場所	芹沢中部自治会館
4　出席者	（資源循環課）原田副主査 （環境事業センター）篠田主幹、和田主事 （芹沢中部自治会）参加人数：16 人
5　内容	本市のごみ処理に関する課題について意見交換会を実施した。会議の主な質問と意見は次のとおりであった。 ●31 年度に方針決定ということであるが、具体的な時期は決まっているか。 →市民の皆様の意見を伺う期間も踏まえ、結論を急ぐことはしない。具体的には決まっていないが、31 年度の下期を予定している。 ●決定した場合は、どのように市民に知らせるか。 →他市を見てみると、方針を決定してから実施までに数年の準備期間を要している。その間に、市民に向けた説明会を開催し情報をお伝えしている。自治会に入っていない方も含め、様々な方々への周知が必要であると考えている。 ●建設改良費は年々増加しているか。 →グラフで示した経費は、27 年度から 29 年度にかけてかかっているものである。今後は、施設ごとに老朽化による整備が必要になり、その都度必要な経費がかかるということである。 →資料２の別紙１に整備のスケジュールが記載されているのでご覧いただきたい。 ●施設は修繕をするのか建替えを行うのか。 →焼却施設については、修繕による延命化を行っている。粗大ごみ処理施設については、建設からだいぶ経過し老朽化が進んでいるため建替えを行う予定である。 ●官庁会計には減価償却の考え方がないため、単年度に多くの経費が計上されてしまっている。市民に対する経費の示し方に工夫が必要である。 →意見交換会を通じて同様のご意見をいただくこともあり、今後経費の示し方について検討をさせていただく。 ●県内４市の有料袋の収支があるが、水準は毎年度同じようになっているか。茅ヶ崎市と比較するには大和市が同程度になるか。 →近年は表に記載している程度の金額で推移している。人口規模で言うと大和市と同程度となる。

●戸別収集の実施の可能性はどうなのか。
→現時点では検討段階であり、実施の可否を判断するために調査を行ない、経費を精査しているところである。
●藤沢市の戸別収集の経費はどの程度かかっているか。
→藤沢市では市民の利便性を確保することを目的に、１０億円弱の経費をかけており、有料化の歳入を差し引くと５億程度の持ち出しとなる。

●有料化と戸別収集をセットで考えるか、別で考えるか。その点についてはどのように考えているか。予算がないから有料化が必要なのか。
→有料化や戸別収集をやるかやらないかというのは現時点で決まっていない。有料化の一番の目的は予算の確保ではなく、ごみの減量である。将来にわたってごみ処理を継続していくためにごみを減らすことが必要であり、その効果的な手法の一つが有料化である。事実として、茅ヶ崎市では将来の灰の処分や施設整備にお金がかかるということはあるが、本来の目的はごみの減量であるということをご理解いただきたい。

●有料化を実施することについて、市民に対してもっと本音を伝えても良いと思う。
→将来子ども達の世代においてもごみ処理を継続し、循環型社会を構築していくということを目指し取組を進めている。

●リサイクルセンターでの処理量が増えていると聞いたが、茅ヶ崎市のごみは減っているか。
→減ってきている。ごみが減った分、資源物が増えることは望ましい。

●中国やシンガポールなどでプラスチックの受け入れが禁止されつつあるが、影響は出ているのか。スーパーの袋も有料化が進んでいる。
→現状ではまだ影響は出ていないが、今後の対応に備える必要がある。

●大和市に住んでいたことがあるが、午後の収集になることもあり、カラス被害や不法投棄も発生していた。各戸にごみ箱が置かれることは景観的にも印象が良くなかった。それらの点について茅ヶ崎市でも配慮が必要であると思う。
→集積場所の管理がなくなるというメリットがある一方、各戸での対策が必要になることや景観の悪化という点はデメリットにもなると認識している。
●現在も不法投棄は発生しており、気になるところである。

以上